

## 高速無料化社会実験（状況報告）について

北部国道事務所 調査課

◎大城 元秀

○宮城かおり

### １．目 的

平成２２年６月２８日より沖縄自動車道全区間において「高速道路無料化社会実験」が実施された。

高速道路無料化社会実験後の平成２２年１０月にWEBアンケート（沖縄県在住１８歳以上を対象）を実施した結果の報告、またトラフィックカウンターの結果から高速道路無料化社会実験前後の沖縄自動車道、国道５８号及び国道３２９号の渋滞の変化の報告を行う。

また高速道路無料化社会実験の実施に伴い、平成２２年７月、平成２２年１１月に行った事業者（北部地域）へのヒアリング結果及び平成２３年３月に行った恩納村内の小売業者へのヒアリング結果を報告する。

### ２．内 容

平成２２年１０月に実施したWEBアンケート（回答数８００票）について分析を行った。回答者（８００人）の８割以上が沖縄自動車道の利用者であり、その内約２割は高速無料化に伴う新規利用者、さらに、新規利用者の約１割は高速無料化前は公共交通（バス）からの転換であった。

高速無料化前から沖縄自動車道の利用していた方の特性として、①無料化に伴う利用頻度の増加②増加率が高い利用者は、許田ICを利用した長距離利用者と都市部のICを利用した短期間利用者が多い傾向が見られる。③高速利用満足度については「不満」の指標が高くなった。不満要因として、高速本線や料金所の交通渋滞や低速走行車の増加による安全性の低下への指標が高くなっている。日常的に沖縄自動車道を利用している方ほど高速無料化に対する満足度は低く、不満度は高くなる傾向となった。

高速無料化に伴う一般道路への影響については、恩納・金武地区の沖縄自動車道並行区間の渋滞緩和などにより、無料化に伴う交通渋滞の改善を指摘していたが、その他の地域においては、「渋滞は変わらない。若しくは渋滞が大きくなった」との回答が多く見られ、特に沖縄自動車道へのアクセス道路における渋滞増加を指摘する意見が多く見られた。

事業者ヒアリングについて、高速無料化の直後（平成２２年７月）、平常時（平成２２年１１月）の２回、対象事業者５社実施した。

高速無料化直後のヒアリング結果として、①高速無料化に伴い、高速道路利用が増えた。②高速道路でヒヤリとする機会が増えた。③高速道路上において故障等で路肩に止まっている車が増えた等の意見が多く得られた。

高速無料化に対しては、定時性が保てないとの意見が多く見られた。

高速無料化の平常時におけるヒアリング結果として、高速無料化直後と同様に「高速道路でヒヤリとする機会が増えた。」との意見が多かったが、高速無料化に対しては、全事業者が「便利になった」と回答し、高速無料化直後に比べ肯定的な意見が多く得られた。

恩納村内の小売業者へのヒアリングは、恩納村内の観光施設・商店等１１施設に対し行った。

高速無料化以降、全施設・商店において来客数・売り上げが約２～３割の減少がもっと多く６施設であった。また経営自体が赤字となっている店舗も存在し、高速道路の有料化を望む意見が多数あった。

### ３．結 論

中南部地域と北部地域間で唯一の定時性を保つ高速道路において、高速道路及び周辺アクセス道路の渋滞、定時性が保てない等の不満が多く見られた。

今後の無料化の継続性については、約６割以上が否定的な意見であり、今後の料金体系については「全区間の割引（５割）」による料金徴収に対する意見が最も多く見られた。

### ４．今後の問題点

高速無料化社会実験が平成２３年６月に終了することに伴い、北部国道管内の国道５８号、国道３２９号への交通渋滞等の影響及び実験終了後の交通形態がどのように変化するか把握する必要がある。